CI-NET利用による商取引の拡大

CI-NET利用者は着実に広がっています

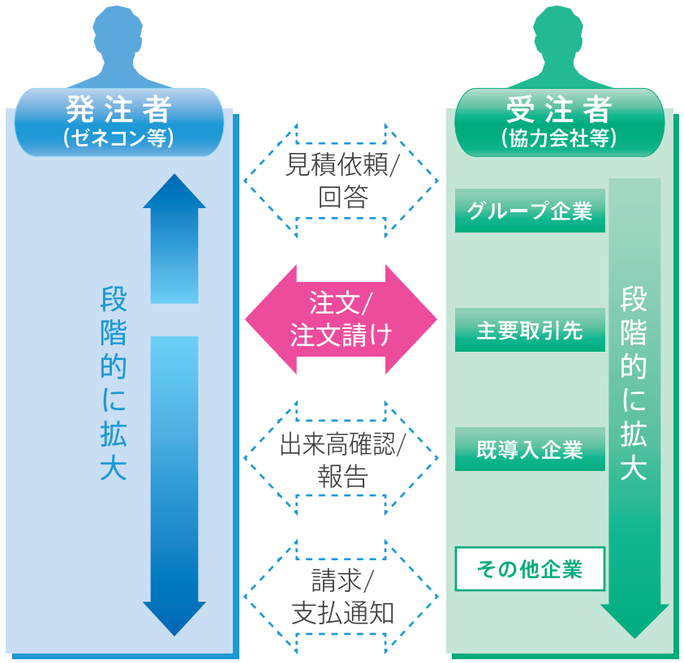
CI-NETの利用により、業務の効率化、業務コストの削減を実現し、経営力のアップ、人材の確保等に役立ててみませんか。

スモールスタートで導入する企業が増えています

「スモールスタート」で簡易にCI-NET導入

「スモールスタート」には、いくつかのアイディアがあります。あなたの会社に合ったやり方を見つけましょう。

■スモールスタートのイメージ



対象業務をスモールに

まずは契約(注文・注文請け)だけから

初期の導入段階では「契約」だけから始めると、社内関係者も限定されるので、調整の負担も少なく、比較的容易に始められます。

取引先をスモールに

主要取引先やグループ企業だけから

主要取引先やグループ企業、CI-NET 既導入企業などから始めると、調整も取りやすく、導入効果も大です。

※社内で電子データと紙の併用になることを懸念される方が多いですが、始めてみるとまったく気にならないという企業が多いようです。

対象帳票をスモールに

シンプルな明細から

内訳明細を添付ファイルとした注文書の鑑データの交換からだと、楽に始められます。

※添付ファイルは、エクセル、PDF などいずれの形式でも可能です。

お問い合わせ

一般財団法人 建設業振興基金 経営基盤整備支援センター
情報化推進室 CI-NET(シーアイネット)担当

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目MTビル2号館
TEL:03-5473-4573　FAX:03-5473-4580　E-mail:ci-net@kensetsu-kikin.or.jp
URL:http://www.kensetsu-kikin.or.jp/ci-net/index.html

CI-NET

CI-NET®による電子商取引

建設業の生産性向上を目指して

CI-NET (シーアイネット Construction Industry NETwork)

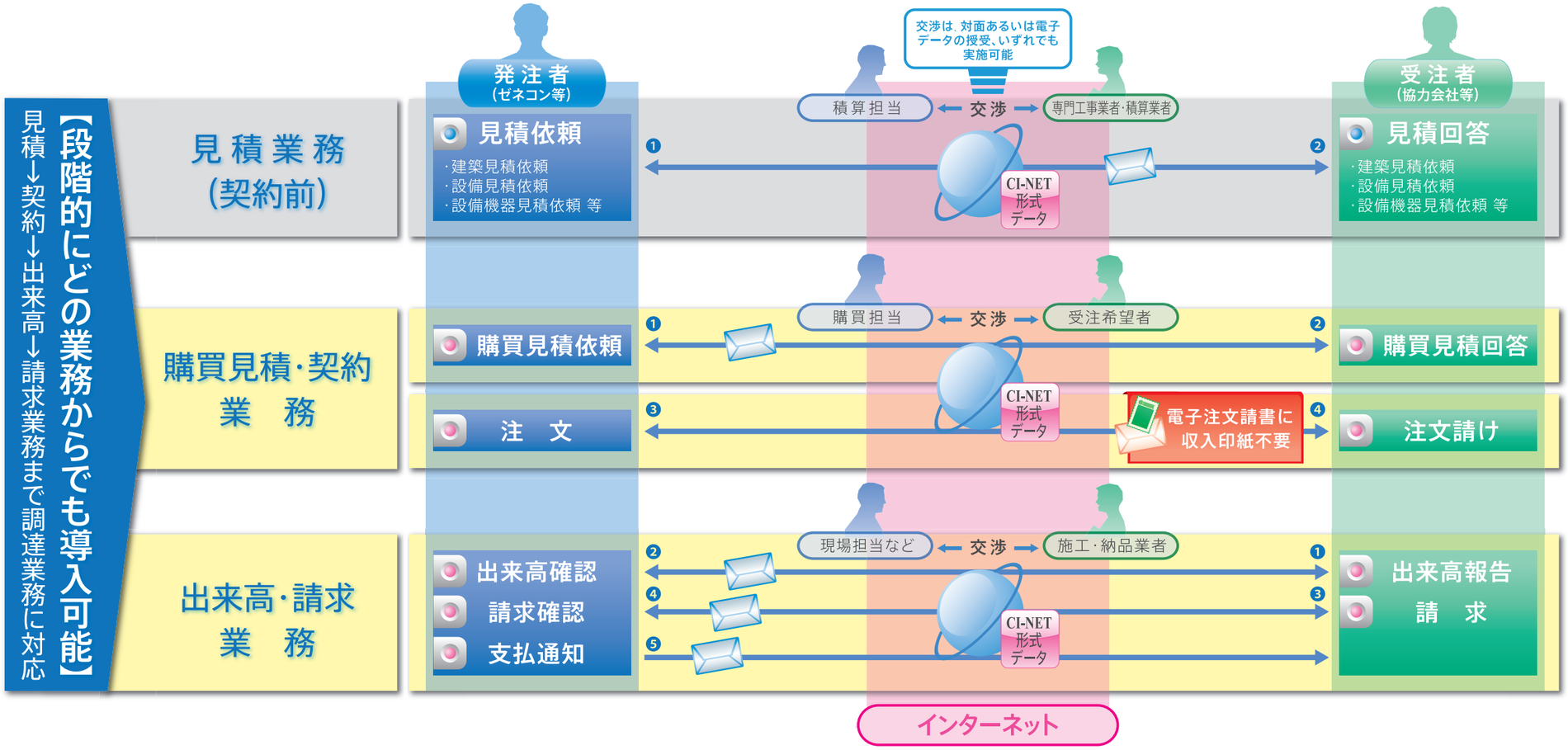
CI-NETとは、建設産業の生産性向上を図るため、企業間の取引情報を、標準化された方法でインターネットを利用して交換する電子商取引の仕組みです。建設産業におけるEDI*標準であるCI-NETは企業間取引の情報交換の前提となる伝送手順、データフォーマット、コード体系、運用などのルールを定めています。

*EDI(イーディーアイ、Electronic Data Interchange)
企業間における取引に必要な情報を、標準的な方法によりネットワークを利用して交換すること。

国土交通省　一般財団法人 建設業振興基金

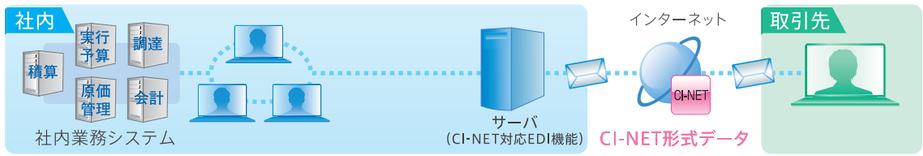
CI-NETで見積から請求まで

建設業標準のCI-NETを利用している企業であれば、どこでも電子商取引が可能になります

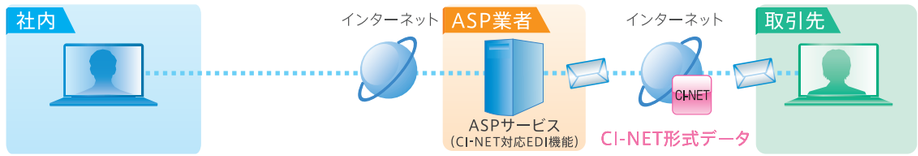


自社の業務、システム環境に応じてタイプ選択

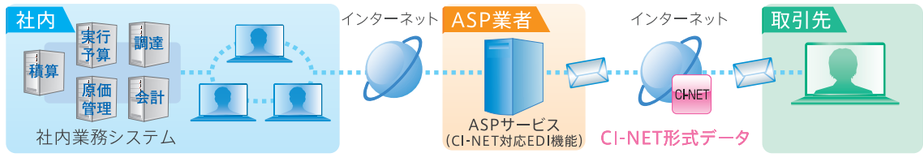
自社構築タイプ
社内業務システムとCI-NET対応EDI機能が連携した自社サーバを構築するタイプ



ASP活用タイプⅡ（ブラウザ利用）
ASPサービスのCI-NET対応EDI機能のみを利用するタイプ



ASP活用タイプⅠ（社内連携利用）
社内業務システムとASPサービスのCI-NET対応EDI機能が連携するタイプ



EDIソフト活用タイプ
CI-NET対応ソフトを利用するタイプ

ASP(エーエスピー、Application Service Provider)
ネットワーク経由でソフトの機能を有償で提供する事業者。
ユーザにとって、インターネットを利用してソフトを利用できるため、ソフトやシステムの導入、運用、更新などの手間が少なくなるメリットがある。

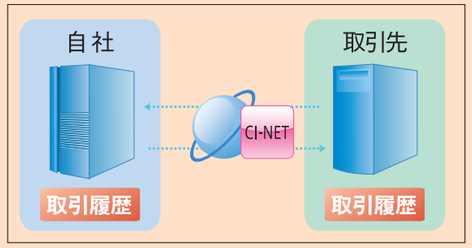
CI-NET対応EDI機能
データの送受信、暗号化・復号、電子署名添付、電子データ保管などがある。

CI-NETの導入メリット

生産性の向上
- 書類の送付や提出などの作業負荷の削減が可能です。
- **業務処理のスピードアップ**が図れます。
- 書類の転記、伝票の再入力などの労力や転記ミスが削減できます。
- 標準化された手順のため、煩雑で曖昧な作業を排除できます。

コスト削減
- 電子商取引では、**注文請書に印紙貼付は不要**となります。
- 書類の郵送費、紙代、通信費、保管費などの費用の節減ができます。

コンプライアンスに寄与
- **取引の履歴が確実に残ります。**
- 追加、変更契約などの煩雑な契約処理にも迅速に対応できます。
- 取引データ履歴などの「見える化」が図れます。



電子データの活用
- **データの比較が容易にでき、蓄積データの活用による調達力の強化が図れます。**
- データの一元管理により調達状況をリアルタイムに把握できます。
- 出来高・請求業務は契約時のデータを活用して作成できます。